



伊根ぐらし窓口通信

第 4 号 発行：伊根町役場

平成 20 年 6 月 4 日

TEL：0772-32-0501(代表)

HP：http://www.town.ine.kyoto.jp/

e-mail：info@town.ine.kyoto.jp

※ この情報は、伊根ぐらし相談窓口等へ、定住や物件情報の相談にお越しになった方、またお問合わせいただいた方へお送りしております。様々なご相談、お問合わせがあるため、もしかしたら、みなさんが求めている情報ではないかもしれませんが、お気の向いた方はご連絡いただければ幸いです。なお、基本的に月1回を目標にお送りする予定としておりますが、ご提供できる情報のないときはお送りできませんので、あらかじめご了承ください。

当町は、取り組みを始めたばかりで、十分なお手伝いができないときもありますが、今後ともご意見をいただき、皆様と共に協力しながらご要望にお応えできるよう進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

なお、今後、こういった情報の送付が不要である場合は、お手数ですがその旨をお申し付けください。

伊根暮らし事例紹介

伊根町に定住いただいた方の事例をご紹介します。第1回目は、平成10年に蒲入漁協(現蒲入水産(有)に所属、伊根町字蒲入)にお越しになった菱田誠さんです。(この文章は平成12年のものです)

<漁師の卵>

僕が、ここ蒲入に来たのは一昨年の三月なので早くも1年と10ヶ月が過ぎました。蒲入に来るまでは、京都のファッションストリート「北山通」を中心に大阪、京都、神戸等に何軒もブティックを持つ店の管理職として仕入、宣伝企画、人事担当、販売と朝から晩まで多忙な毎日、晩御飯を食べるのが夜の12時、1時は当たり前の日常生活でした。

そんなある日、求人広告誌の会社が見本に持ってきた広告に「あなたも漁師になりませんか？」という求人広告が。それは蒲入漁協の広告ではありませんでしたが、漁師というのはその土地の人が代々継いでいくものだと思っていた僕には衝撃的な記事でした。知り合いをつてにトントンと話が進み、漁師の卵はひょっこりと生まれることになりました。

どうしてそんな簡単に漁師になる決心をしたのかとよく聞かれます。きっと単純に海が好きだからと答えます。船も、潮の香も好きです。しかし、自分の仕事として実際に海に出てみると「好きだから」の甘い考えでは通用しません。幸いに船酔いはしないのですが、何しろ何も知らないのです。

蒲入漁協の自営定置網の第一豊漁丸の乗組員として乗船しているものの、沖での作業は危険も伴い、特に海の荒れている時など船のローリングで立っているのが精一杯です。

海に憧れ、漁師になろうと覚悟を決めて取り組みましたが、想像以上に厳しい現実に直面することもしばしばあります。沖での作業は誰も悠長に教えてくれる人はいません。

船で使う道具の名前も分からない中で「まこと、そこを『トッターリ』でくくれ」。トッターリ？なんだか分からないのでボサッとしてしていると「なにしとるだいやあ！はよう、くくらんかいやあ」と雷声で怒鳴られる。

また「まこと、『ハッカ』でそこをひっかけれえ！」。ひっかける意味はわかって、ハッカ？がわからずうろろ。また、大声が出る。これだけでなく海の上での作業に使う言葉はあまりにも理解できないことがたくさんあります。

ちなみに「トッターリ」はロープのこと。「ハッカ」とは竹の先に鉄のカギを固定したものでした。いずれにしても漁師の方言と漁具の名前が分からないのには苦労しました。

そうして1日で今までの1年分くらい怒鳴られ1年と10ヶ月が過ぎましたが、まだまだ「ヒヨッコまこと」です。辛抱強く、元気よく今日もとんちんかんことをして漁労長に叱られたり笑われたり。本音はやさしい情のある蒲入の漁師の方々の指導を受けながら一人前の漁師を目指します。

平成12年1月1日付で蒲入漁業協同組合の正組合員に加入させて頂きました。蒲入に来て、初めて子宝にも恵まれ充実した新年となりました。将来の夢として一日も早く立派な漁師となり自分の船を持ちたいです。